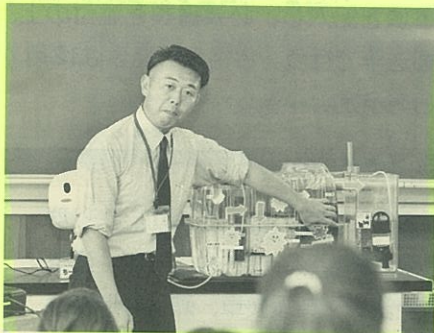


## 千環保

## 水環境や污水处理施設の役割伝える 県内2小学校で浄化槽出前講座開く

(一社)千葉県環境保全センター(石井栄理事長)による出前講座が、6月5日に君津市立小櫃小学校、同12日に四街道市立八木原小学校で開催された。子どもたちに“水”について関心を持ってもらうことを目的に、スライドや動画、浄化槽のミニチュアモデルを用い、千葉県の水環境、浄化槽など污水处理施設の役割について知ってもらった。

出前講座は、同センターの若手経営者等60名で構成する青年部会(鳥井直哉部会長)が中心に企画したもので、使用した教材は(公社)富山県浄化槽協会の協力を得てオリジナル版として作成。内容は子どもたちに分かりやす



浄化槽の説明をする鳥井部会長

くするだけでなく、飽きさせないようにクイズを盛り込むなどの工夫を凝らした。

同部会ではもともと、環境保全への貢献を目的に環境イベントへの出展、水辺の清掃活動を実施してきており、平成25年度からは小学生を対象に、ポリテクカレッジ千葉(千葉市)で浄化槽の役割、水環境保全の重要性を広める「子ども環境教室」を開催していた。それを発展させたのが今回の取り組みで、まずは鳥井部会長の母校でもある小櫃小学校の4年生32名、次いで八木原小学校の4年生2クラス66名を対象に講座を開催した。

このうち小櫃小学校での授業は、



クイズを交え、飽きさせないよう工夫した

を用いて世界におけるトイレの歴史、下水道や浄化槽等の污水处理施設の役割、微生物を活用した浄化槽の仕組みを子どもたちに教えた。

またその際に行ったクイズでは、「生活排水で最も汚い水は台所由来」「油500mLを流した場合、魚が住める水にするために必要な希釈水量は風呂330杯分」「地球は“水”の惑星と言うが、そのまま飲用できる水は風呂1杯分に対してスプーン1杯」などということの説明。子どもたちから驚きの声

があった。

その後、講師を務めた青年部メンバーらは、こまめな節水、洗剤をなるべく使わないなど汚濁負荷削減を呼びかけ、「環境を守るため、皆ができることを一つでも実践してもらえたら」とこの日の授業の内容を家族にも伝え、協力してもらおう求めた。

子どもたちからは「汚い水をきれいにしてまた使えることが分かった。水を大切にしたい」「お風呂でシャワーを使うとき、止めるときは止めて、出すときは出すなどやっていきたい」などの感想があり、授業後は同センターのマスコット「ちーじょ」がプリントされた定規を配布、記念撮影で締めくくった。

同センターでは出前講座について「浄化槽や水に関心を持ってもらう重要な取り組み。来年度以降も開催したい」との考えを示している。

